

(2) 外部資金等

本学では、授業料収入への過度の依存をさけ、学生生徒等納付金収入以外の財源の確保を図るため、様々な取り組みを行っている。

○文部科学省科学研究費、外部資金（寄附金、受託研究費、共同研究費など）、資金運用益等の受け入れ状況（B群）

外部資金の受け入れ状況については、[大学基礎データ表 33、表 34] のとおりである。

寄附金は、「教育研究充実基金」として年 2 回、在学生の父母宛に趣意書を送付している。募集金額 100,000 千円に対し、2005 年度実績額は 14,520 千円で、過去数年間、ほぼ同程度の額に留まっている。学部在学生総数でみると一人当たり数千円程度となり、十分な寄附金収入を得ているとは言えない状況にある。在学生（父母）を対象とした募金の特徴として、募金者の多くが新入生の父母で、募金実績額の約 80% を占めており、募集時期や募集対象について、在学生に対する募集を年 1 回に集約するなど、経費面での費用対効果も視野にいれながら今後更に募金活動に注力する必要があると考えている。

また、企業等からの寄附金受入実績は皆無であるが、これは長引く不況を背景に、積極的な広報活動が実施されていなかったことが原因であり、今後は受配者指定寄附制度の周知を含めたアプローチが必要である。

科学研究費の 2005 年度採択件数は 22 件、配分額は 54,000 千円(新規採択+継続分)で、前年度と比べると件数で 14 件、配分額で 37,600 千円増加した。薬学部・現代社会学部での採択が多い。同規模他大学と比較して、採択件数・配分額ともに決して高い数値とは言えないが、前年度と比較して大幅に増加したことは評価できる。今後も引き続き積極的な申請が課題である。

2005 年度、企業等からの委託研究費・共同研究費・奨学寄附金の総件数は継続分を合わせると 19 件で、研究費総額は約 13,830 千円で、昨年度と比較して大幅な増加となった。今後、医療薬学科の開設に伴い、薬学系の受託研究費増とともに他学部・他学科においても件数が増加するよう全学的に努力している。

2004 年度より「学術研究推進センター」を本学の学術研究推進業務を統括する新たな部署として事務組織内に設置した。教員の研究業績管理を基に、産官学連携事業を推進するための教員紹介パンフレット「The Dreams of DoRis」[添付資料(14)] を発刊するなどして、外部資金調達に注力している。